











# デイゴ並木

(瀬戸内町天然記念物)

樹令300有余年からなる85本のデイゴ並木は毎年5月～6月にかけて真紅の花を咲かせ島の情緒を呈し昭和53年から町の文化財に指定されて、うち21本については国の巨木樹に登録されています。

※ **デイゴ**はインド原産のマメ科の落葉高木です。

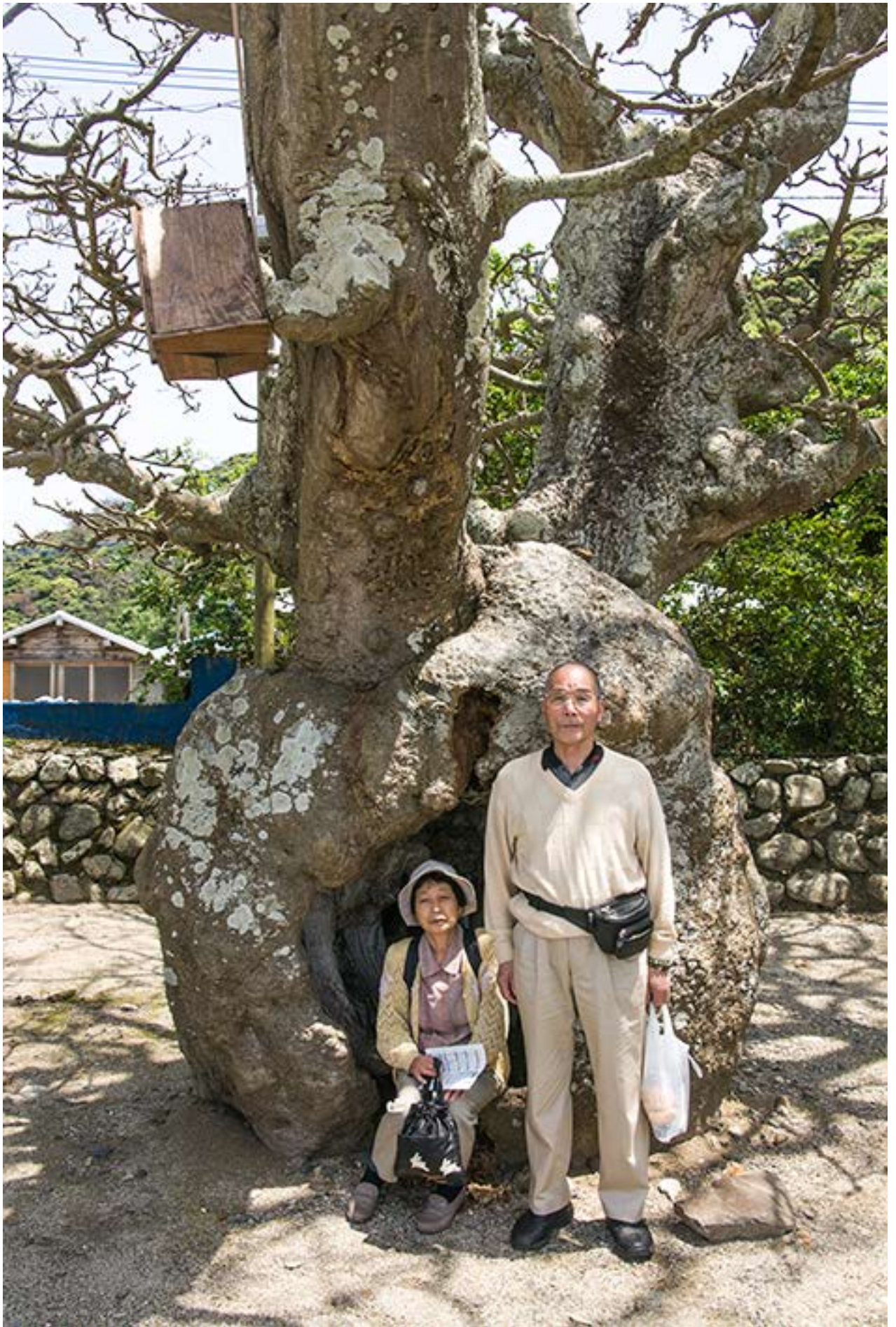
瀬戸内町教育委員会

































## 平資盛墓碑・読み下し文

### 【文面】

以下は、大正九年に諸鈍出身の喜久晚字が読み下したものの転載です。

史に称す 寿水の乱 安徳帝蒙塵 西に幸して舟中に崩す 卿等相従いて海に沈む 或は曰く卿及び有盛、行盛帝を保護して南濱に浮び龍窟終に平穏なり 今大島に三卿の墓あり而して相伝う 元暦中三卿兵士数百を率いて此に至り分地して島人限従す 是によりて之を報れば行在所分明ならずと雖も知らず或説必ず其の既いざるを如し然らば則ち彼の一の谷八島の役 教経の若く知盛の若きは勇は則ち勇なり 未だ卿等 艱苦困厄 万死一生終に能く龍窟をして安全ならしむるの忠且つ智に及ばざるなり 卿の墓往日茂林疎林曾て田吏有り其の樹林を剪り尽し似て朱漆の地と為すと曰う 予佐幸と為りて茲の墓此に至る古を弔うて曰く嗚呼痛哉 郷時の不詳に逢う然れども其の忠 心義氣万古に亘りて息む可からず 而して其の墳堂浪没土民野 夫の剽賊汚穢を蒙らば則ち千歳の下と雖も英靈其れ安んず可けんや 之に依りて土人等と相計り再び舊墳を復し并びにこれ石を石に粘し似て祭祀の意を寓すと云う

## 平資盛墓碑 (たいらのすけもり・ぼひ)

史実かどうかは別として、奄美大島一番には平家伝説が伝わっています。平有盛、平行盛、平資盛の三将が落ちのびてきたというもので、それぞれの縁地として、奄美市名瀬浦上、龍郷町川口、加計呂麻島の諸鈍が知られています。

この三ヶ所には共通して、藩政時代に薩摩の役人が建てた墓碑が残っています。いずれも薩摩藩による砂糖買入高が大きくなる理由についてはまだ十分に説明がなされておらず、今後の研究が待たれます。

墓碑は、諸鈍にかぎっては大屯神社の敷地内に二基あります。ここにあるものとは別に境内のコンクリート祠内にもあり、いずれも鹿児島から持ち運ばれてきた石で、正面には「三位中将小松資盛之墓」と彫られています。

なぜ同じものが二基あるのかという点、もう一基の方は、薩摩から諸鈍に運ばれてきた染川四郎左衛門という人物が、それまであった平資盛墓碑が風雨に侵食されているのを見て哀れに思い、同志と協力して再建したものだそうです。染川はのちに諸鈍から沖水良郎島流論となり、同島で医業のかたわら塾を開いたそうです。

墓碑はどちらも文字の磨耗が激しく、新へこ再建されたものがどれかはつきりしていません。









